

【第5回 佐賀県鳥インフルエンザ対策本部会議】 12月6日

農林水産部長／今朝5時に疑似患畜が確定。6日16時38分、殺処分が終了した。処分羽数は2万8,329羽。

埋却は、今朝6時35分より開始。現在までにフレコンバック136袋を投入。現地対策の防疫作業の動員数は、929名。内訳は、殺処分に631名、現地対策本部は78名、サポートセンターは243名、消毒ポイントが55名。第3クールの見込み数を含む。今後の作業内容は、

- (1) 殺処分した鳥、飼料、卵、使用済みの防護服、長靴などの汚染物品を埋却。
- (2) 鶏舎内外、鶏舎以外の農場敷地内を動力噴霧器で消毒。鶏舎以外の農場敷地内全面に消石灰を散布。
- (3) 鶏舎の中の鶏糞は、発酵処理をする。

防災監／ゲージの下に滞留した鶏糞を通路や一定の場所に集めて、ビニールシートをかぶせ発酵処理をする。ゲージが古いため、ゲージ下の汚泥や鶏糞を人力作業で集めることになり、時間がかかると予測している。

防疫措置完了目標の72時間後は、9日朝5時。できれば、8日の夕方までに終わらせたい。

畜産課長／鹿児島県出水市で、6例目の疑い事例が確認された。

出水市の地図。青い丸や四角が採卵鶏、肉用鶏の農場の場所。赤丸の6か所が、鳥インフルエンザが発生した農場の位置。養鶏農場が密集した状態になっている。

知事／青は何？

畜産課長／養鶏場。

知事／出水は、こんなに密集している。佐賀県と縮尺を合わせるとどうなる？

畜産課長／これが、本県の鳥インフルエンザが発生した農場周辺の養鶏場を示した地図。

知事／県内は、青印の養鶏場があまりない。

発生農場の防疫対策のほかに、周辺の養鶏場で発生しないように対応する。この段階で、統一見解として持っておかないといけない。

農林水産部長／今回発生した場所は、周辺に養鶏場が少ない。県内でも有田、西有田、太良方面は密集している地域がある。

知事／密集エリアを把握し、発生した場合は同時的に周りも抑えていかないと、後追いになってしまう。その点を理解し、今回も周辺の養鶏場を意識する必要がある。

鹿児島も対策しているだろうが、出水市で広がる理由に野鳥もいる。他県でも頻発している県がある。

農林水産部長／香川や鹿児島は続発している。いつどこで発生してもおかしくない。消毒の徹底を訴えていきたい。

知事／消毒命令を発出した。今後、どこかで起きた場合、すぐに周辺を調べて、一緒に対応することが大事。

出水市は密集しているので、移動制限をかけても広がってしまったということ。いい資料でした。

県民環境部長／鶏卵、鶏肉の価格調査、不適正表示の有無を巡回すると報告した。

県内 10 店舗のスーパーにヒアリングした結果、大きな変動はない。顧客の行動も冷静で、現場の混乱はない。引き続き、週 1 回の価格調査を行う。

不適正表示について、県民環境部と保健所で協力し、40 店舗ほどのスーパーを巡回した。不適正な表示はなく、県民からの通報もない。

健康福祉部長／県民から鶏肉や卵を食べても感染しないかとの問い合わせがあった。感染はしないと回答した。

知事／適切な報道をしてもらっている。報道に感謝する。

小松市長／迅速な対応により、早朝の殺処分完了が達成でき、お礼申し上げる。

武雄市から 14 名派遣し、防護服の着衣の補助、交通整理、県の指示の仲介など連携をとって進めている。

封じ込めをするため、ペットの防疫対応として、家畜保健衛生所に登録していないペットにも消石灰を配布する。市独自でも進めていきたい。

知事／殺処分が完了したことに、関係者すべての皆さんに心から感謝する。殺処分では、12 時間を切ることができた。皆さんの努力のたまもの。

農林水産部では、訓練やシミュレーションをして準備した成果が出た。このあと 72

時間でやるべき防疫措置がある。ここまでで半日稼げたので、落ち着いて順次的確に対応したい。近接したところで発生すると、いたちごっこのようになる。

すべての皆さんが、できる限り予防する。発生したことは仕方がないが、予防はできる限りするという気持ちを持ってほしい。

司会／次回は、7日の夕方を予定している。